

「i-都市再生」の推進

平成30年7月
内閣府地方創生推進事務局

民間投資を喚起する「i-都市再生」の推進

① 日本経済の課題

- ・質の高い民間投資案件の不足（預貸率の低下等）
- ・東京一極集中の是正（災害リスク、ローカルアベノミクスの推進）等

⇒ 「地方中枢・中核都市等への質の高い都市再生投資」を推進
（基本方針） 「選択と集中」 + 「地域の意向の尊重」

- i) 質の高い都市投資案件の形成
- ii) 関係者の合意形成
- iii) 投資家の理解促進

② 新たな仕組みの構築 → 「基本的考え方(2018.4)、基本方針等改正(2018.7)」

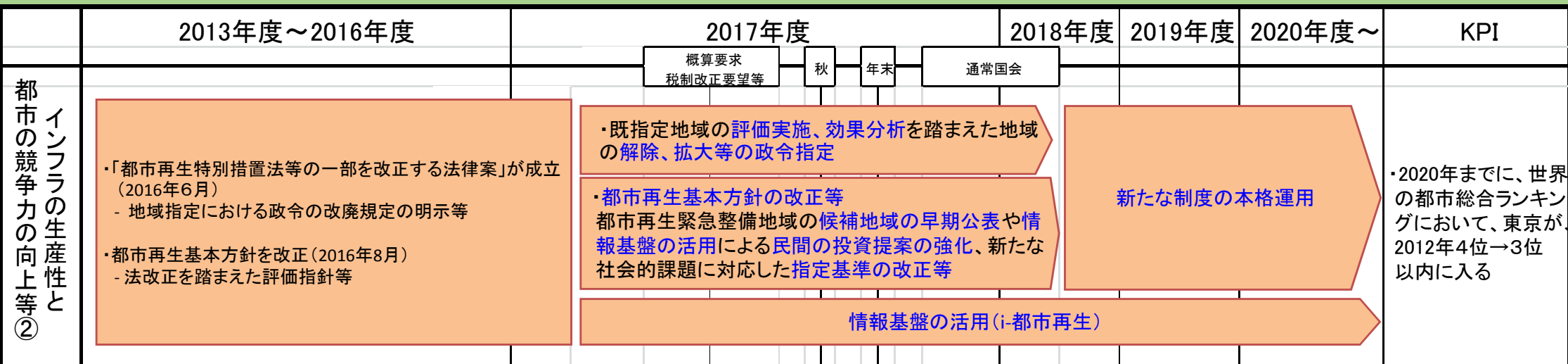
- ・都市再生緊急整備地域（都市再生本部）の「候補地域」を設定
- ・ICT等活用イノベーション・情報基盤「i-都市再生」の構築と活用

⇒ 「未来投資戦略（成長戦略）2017、骨太方針2017」
「まちひとしごと総合戦略2017改定」に位置付け済

未来投資戦略2017（成長戦略、抜粋）

（インフラの生産性と都市の競争力の向上等）

都市再生緊急整備地域について、**候補地域の早期公表や情報基盤の活用による民間の投資提案の強化**、解決すべき社会的課題を明確にした**指定基準への改正等**により、効果的な民間投資が実現される地域に限定して指定するため、**来年夏を目途に都市再生基本方針の改正等**を行う。



経済財政運営と改革の基本方針2017（骨太方針、抜粋）

（都市の活力の向上）

都市の活力を高め、にぎわいを創出するため、コンパクト・プラス・ネットワークの形成や未利用資産の有効活用を進める。

東京・大阪等の大都市で、国際ビジネス・生活環境の整備や防災性の向上等を図るため、既存都市基盤を柔軟に整備・活用しつつ、民間都市開発事業を推進する。**都市再生の「見える化」等を通じて、民間投資の呼び込みを拡充する新たな仕組みを構築する。**

まちひとしごと総合戦略2017（改定、抜粋）

（官民連携・「見える化」の推進）

まちづくりによる効果等を「見える化」する情報基盤（「i-都市再生」）を構築し、都市再生緊急整備地域の候補地域等において活用し、まちのビジョンの共有や関係者の合意を容易にすることで、地域金融機関との連携やクラウドファンディングの活用を推進し、民間投資の喚起を一層促進する。

「i-都市再生」 (都市再生の「見える化」情報基盤) の構築

地球地図 (Google-Earth等) 上で都市再生を「見える化」する 情報基盤「i-都市再生」

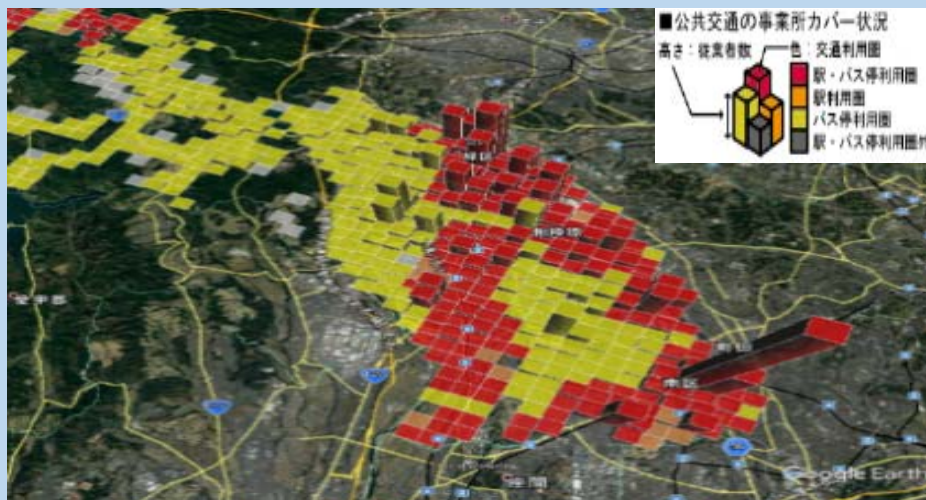
(2つの目的)

- 1) 都市再生の社会的合意形成・投資環境のイノベーション ⇒ 民間投資の喚起
- 2) 都市再生緊急整備地域の再生事業KPIの設定・評価・検証 ⇒ EBPMの支援

(i-都市再生の機能) 2つのMain-module + App.構成 (GIS・世界標準との互換性確保)

- ① 都市空間管理に関するmodule ⇒ どのようなまちになるか (直感的な理解)
- ② 都市収支分析に関するmodule ⇒ まちは持続、発展するか (数理的な納得)
- ③ ビックデータ・オープンデータ ⇒ 交通/環境/災害等 諸課題解決のApplication

(特に②への適用としてgridメッシュ単位でのDATABASEとする予定)



メッシュデータによる見える化 (公共交通利用圏と夜間人口分布)



VR技術を活用した表現ツール (大分市中心市街地)

ステークホルダーの行動変化

住民

ここにバス停ができるのか。分かりやすいな。病院への便数もかなり多くなるみたいだから通院も便利になるね。電線も地中化してもらおうと災害・救助の際も安心だ。要望はしっかり出して事業には協力しよう！

投資家

こういう地区に再生されていくのか。30年後のまちの収支も良いみたいだし、駅周辺の人口も維持されるみたいだからテナントも確実に決まりそうだ。「都市再生ファンド」に投資、資金運用して行こう！

行政

模型を作るよりコストも安いし、まちの「今と昔」を画像で示せるから、再開発の事業や計画を住民にわかりやすく説明できそうだ。まちづくりを住民と共有して、まちの景観形成やブランディングに活用していこう！

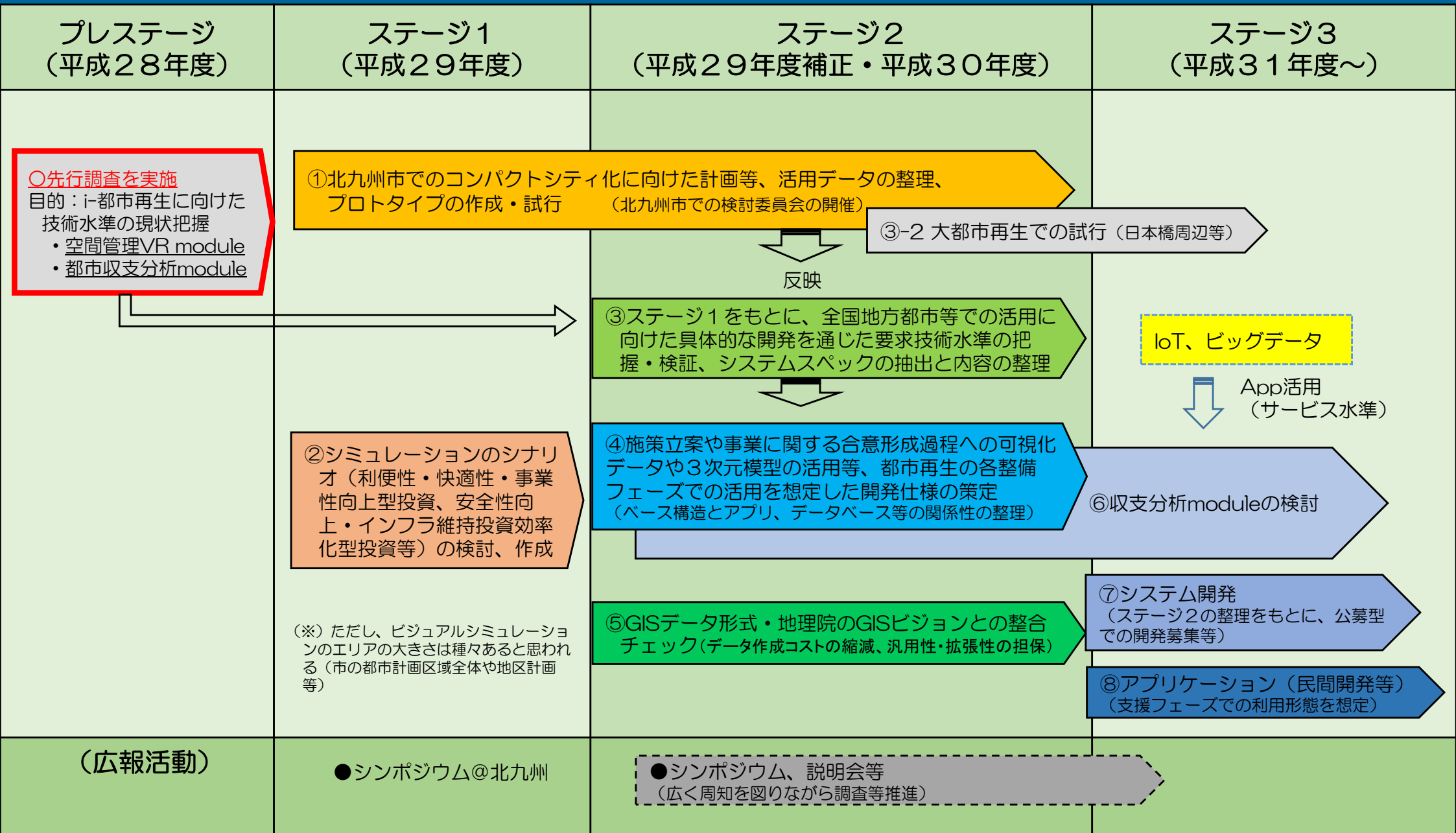
事業者

建設物が背景の歴史的資産や景観と調和することを映像で示せるのは便利だ。まちの公園整備や電線の地中化など、公共貢献していることもPRして、関係者の理解を得て行こう！

「i-都市再生」と従来手法との比較

	「i-都市再生」
従来(まちづくりの手法)	i nformation, i nternet, i nvestment, i nvolvement, i: 愛
2D(平面・紙の図面)	Web・3D(空間),4D(時空間)
静止図、文字のみ(解説)	動画・インターラクティブ、音声
説明会、事務所に掲示	365日24時間閲覧可能、OPEN

「i-都市再生」：構築スケジュール（案）



<留意事項>

- ① Society5.0 快適まちづくり、コンパクトシティ等の実現の技術的な武器とする
- ② SDGs、ストック型社会の実現に向けたステップとする

都市再生に取り組む基本的な考え方（都市再生本部決定 2018.4.26）（要約版）

1. 2. 都市再生に取り組む視点 及び 基本姿勢

- ① 東京への一極集中の是正（災害リスク軽減、ローカルアベノミクス具体化等）、地方創生の推進は喫緊の課題
- ② インバウンドや子育て支援等、新たな需要も見られるが、質の高い投資案件が地方には不足（→預貸率の低下等）
- ③ 国民生活や経済の基盤である都市、特に「国力の源泉」となる、地方中枢・中核都市等に、いかに戦略的に投資するか、いかに投資を呼び込み「未来の発展基盤」を構築していくかは、内政上の重要課題
- ④ 一方、AI、IoT、FinTech等、都市への投資のあり方に影響を及ぼす革新的技術（近未来技術）が進展

- ⇒ 地方経済のエンジンとなる中枢・中核都市等を「世界に直結し、機能、成長する都市」へ再生させる
- ⇒ 近未来技術の実装や「SDGs」の考え方を踏まえた「世界最先端の都市再生」を進める
- ⇒ 産学官金の総力を上げ、「現地支援体制」を整え、「質の高い投資案件」を形成する
- ⇒ リニア新幹線等の整備効果を広く国土に波及させ、「全国諸都市の国際競争力を向上させる」
- ⇒ 多様な主体の連携によるインバウンド需要への対応や、対日投資の気運を取り込む都市再生を推進

前世紀から残された課題を解決するとともに、「伝統文化を育み、自然と調和した世界に誇れる都市を未来に引き継ぐ」

3. 新たな取り組み

- (1) 都市再生緊急整備地域の「候補地域」の設定、公表
- (2) 「候補地域」段階等における「産学官金のプラットフォーム」の形成
- (3) 都市再生の見える化情報基盤「i-都市再生」の構築、活用、普及等
- (4) 「特定都市再生重点プロジェクト」の推進

- ① 「近未来技術社会実装関連プロジェクト」
Society5.0の形成に資する近未来技術を社会実装するための都市再生プロジェクト
- ② 「スーパー・メガリージョン関連プロジェクト」
リニア新幹線により出現する7000万人規模の集積効果を最大限に引き出す都市再生プロジェクト

4. 制度改正等

上記の取り組み等を踏まえ、「必要な制度改正等」を行う。

都市再生基本方針の一部変更 抜粋 (平成30年7月13日閣議決定)

第二 都市再生のために政府が重点的に実施すべき施策に関する基本的な方針

1 都市再生に取り組む基本姿勢

都市が抱える様々な課題を解決するため、近未来技術や科学技術施策と都市の再生に関する施策の連携を強め、Society 5.0を実現する自動走行、AI、IoT、ロボット等の近未来技術を実装する取組等を通じ、生産性の向上と都市の国際競争力強化を図る。

都市再生に関する戦略の策定やその実施に当たっては、地域の課題や都市再生による将来像、効果等についてわかりやすく見える化し、産学官金、住民、事業者、投資家等の関係者間で共有することにより、都市再生の推進に向けた議論の充実を図っていく必要がある。また、支援の対象とする計画の各プロセスにおいて、第三者の目を入れた客観的な基準やデータに基づく評価を実施し、計画や関連する施策の充実や施策間の整合性の確保等につなげることが重要である。

まち・ひと・しごと創生基本方針2018 抜粋 (平成30年6月15日閣議決定)

Ⅲ 5 (5) 地方経済の中核・中核都市等への投資の喚起

地方経済のエンジンとなる中核・中核都市等への更なる投資の喚起を図るため、AI、IoTなど、Society5.0の革新的技術を社会実装するなどの世界最先端の都市再生を力強く進め、地方創生を加速し、地方経済の活性化と地方における国民所得の向上を図り東京一極集中を是正していく。そのために、都市再生緊急整備地域の候補となる地域の設定や都市再生の見える化情報基盤「i-都市再生」を整備するとともに、特定都市再生重点プロジェクトを推進していく。

経済財政運営と改革の基本方針2018 抜粋 (平成30年6月15日閣議決定)

第二章 6 (3) まちづくりとまちの活性化

民間団体が主体となって行うまちづくり活動に対し、その財源確保等を支援する制度の活用を促進する。民間による都市開発事業を促進するため、まちづくりの計画等に関する情報共有を支援し、関係者の合意形成や投資家の理解を促進する。

(脚注) i-都市再生：まちづくりの計画や効果を3Dの地図によって「見える化」する情報基盤。